

## なばり しょうがつ 2. 名張のお正月

### 1. 美旗中村のどんどこ

「おーい、引けー！」しばらくすると、「分かれてー。」  
1月のあるさむい日、そんな大きな声の名張市の北がわにある美旗中村の公園にひびきました。すると、そばの電



かんせいした どんどこ

ちゅうより高いタワーのようなどん  
どどが立ちあがりました。

つぎの日の朝、地元の人が大きな声で家いえの方にむ  
かって「もやすぞー」「もやすぞー。」と、さけびまし  
た。そして、どんどこは大人に見まもられた子どもたちの  
手によって火がつけられ、大きな火となり、バチバチと  
音をたてながら、上の方にもえあがっていきました。つ  
ないであったロープが引かれ、どんどこは火がついたま  
ま、ドーンと音をたててたおれました。すごいはく力で



立ち上がる どんどこ

ぜん体がもえはじめると、たくさんの人があつまってきました。その人た  
ちは、ひらべったく丸い形をしたお正月のおもちを、長い竹のくしにさして、  
もえているどんどの火にかざしてやっています。

このおもちを家に持ち帰り、あずきがゆにいれて  
食べると、一年中かぜをひかないといわれています。  
また、じん社や寺のおふだやお正月のまつか  
ざり、書きぞめをしたしゅう字の紙をもやしてい



どんどこでもちやきをする人たち

る人もいます。美旗中村には、このどんどこを毎年つづけていくための「どん  
どどほぞん会」というなかまの会ができています。むかしからつづくお正月行じの  
どんどこ。地元の人たちのけんこうやあんぜん、しあわせへのねがいがいっぱい  
つまった行じです。

### 2. 名張のぞうに

お正月によく食べられる「ぞうに」は、あじつけやざいりょうなど、家によ  
つてさまざまです。

そして、地いきによって、とくちょうがあったようです。

むかしから食べられてきた「名張のぞうに」をしょうかいします。

#### ざいりょうは……

大こん・里いも・とうふをつかいます。

丸い形になるように、細いだいこん・小  
さい里いもをつかいます。

丸い形にするのは、「今年1年何ごとも

なく、丸くおさまるように」というねがいをこめているからです。

とうふも角ができないように、スプーンなどで丸くする地いきもあるよう  
です。



ぞうにのざいりょう

#### おもちは……

丸めて手のひらでおした、「おしも  
ち」をやいてから入れます。

#### あじつけは……

みそあじです。

おもちをぞうにからとり出して、き  
なこをつけて食べる地いきもあります。



ぞうにときなこ



あなたがすんでいるところやその近くでは、どんな「ど  
んどど」が行われているかな。どんな「ぞうに」が食べられ  
ているかな。しらべてみましょう。